

令和5年
8月17日
発信

三田稲作情報



左記のQRコードを読み込んでいただくとHPでもご覧頂けます。
(スマートフォンのみ)

【発行・編集】

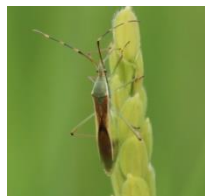
JA兵庫六甲三田営農総合センター
お問い合わせ先:079-563-4192

8月17日に水稻病害虫発生予察調査を実施しました。

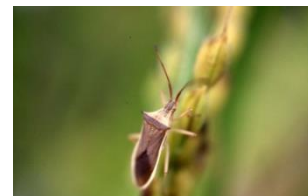
1. 生育・病害発生状況について

コシヒカリの生育は平年並で、現在登熟期間中です。山田錦は草丈が昨年より短い状況で、出穂期は平年並みか平年より2～3日早い見込みです。

品種	令和5年		令和4年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシヒカリ	111.7	21.3	-	-
どんとこい	96.7	22.0	93.8	23.7
山田錦	91.3	21.5	105.1	21.3



クモヘリカメム



ホソハリカメム

病害の発生状況は、いもち病・紋枯れ病が一部圃場で見られましたが、少ない状況です。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が見られましたが、少ない状況です。カメムシ類では、イネカメムシ、クモヘリカメムシが一部地域で発生しています。

2. 今後の栽培管理について

コシヒカリは登熟期間中ですので、早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7～10日前まで適度な湿りを保ちましょう。山田錦は出穂の時期を迎えます。出穂前後は最も水分を必要とする時期なので、湛水状態にし、その後は間断灌水を心がけましょう。

病害は今後の天候によっては発生の可能性があるため、引き続き注意が必要です。

虫害は、ウンカ類については防除が必要な密度には達していませんが、山田錦では引き続き秋ウンカの発生状況に注意してください。

カメムシ類については、今後1か月の平均気温は高いと予想されており、増殖に好適な条件となるため、圃場で発生状況を確認して対策をとりましょう。

3. カメムシ類対策について

山田錦は出穂前と出穂後に2回防除を行いましょう。

1回目(出穂前):トレボン乳剤(2000倍、60～150L/10a)で防除しましょう。


2回目(出穂後):スタークル粒剤(3kg/10a)又は

スタークル豆つぶ(250g/10a)で防除しましょう。

2回防除により、不稔と斑点米の被害を軽減出来ます。

4. その他

9月に入ると、コシヒカリの収穫時期になります。平均的な穂の充実した籾の8.5%が黄化したときが刈取適期です。早刈り、遅刈りを避け、適期収穫に努めましょう。

令和5年 8月4日発信	<h1 style="margin: 0;">三田稲作情報</h1>	 <p style="margin: 10px 0;">左記のQRコードを読み込んでいただくとHPでもご覧頂けます。 (スマートフォンのみ)</p>
【発行・編集】 JA兵庫六甲三田営農総合センター お問い合わせ先;079-563-4192		

8月3日に水稻病虫害発生予察調査を実施しました。

1. 生育・病害発生状況について

コシヒカリの生育は平年並で田植え日が早いところでは傾穂～乳熟期を向えています。山田錦は草丈が昨年より低い状況です。

品種	令和5年		令和4年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシ	107.2	21.6	104.4	23.4
どんと	94.2	22.0	84.0	23.4
山田	76.0	22.3	94.9	22.2



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

2. 病虫害発生状況について

無人ヘリ防除を実施した圃場では、ウンカ類の発生は若干見られる程度で、今すぐ防除の必要はありません。カメムシ類は上記のカメムシに加え、イネカメムシが発生しており、既に他地域でも多発生が確認されています。すでに防除されている箇所でも発生状況を注視し、目につくようであれば臨機防除をお願いします。

病害の発生状況は、いもち病が一部圃場で見られましたが、少ない状況です。ほとんど停止型でしたが、胞子が残っているため今後湿度の高い日が続くと病害が増える可能性もありますので、今後も注意が必要です。特に、出穂前のいもち病防除をしていない圃場はよく観察し、病斑が見られる場合は薬剤散布しましょう。市内で多く発生している地域は、山際の日照時間が少なく朝露の乾きにくい圃場や川沿いの湿った条件となりやすい圃場なので注意してください。

薬剤名	適用病虫害	10a当たり使用液量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロコバイ、コメイチユウ、イネトロオムシ、イネミスヅウムシ	3kg	収穫7日前まで	散布(ひたひた水から3cm程度の水深で散布)	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g	収穫7日前まで	散布(たん水から3cm～5cm程度の水深で散布)	3回以内
	(ウンカ類、ツマグロコバイ)	(250g～500g)			

3. 今後の栽培管理について

コシヒカリは傾穂～乳熟期です。生育ステージに合わせた水管理を徹底しましょう。山田錦は2回目の穂肥散布時期が近づいています(出穂10日前頃)。圃場での幼穂の長さを確認し、適期施用を行いましょ。出穂期前後は特に水を要する期間です。降雨の少ない天候が続いていますので、深水管理とし水を切らさないようにしましょう。

4. その他

早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7～10日前まで適度な湿りを保ちましょう。

令和5年
7月20日発行

三田稲作情報



左記のQRコードを読み込んでいただくとHPでもご覧頂けます。
(スマートフォンのみ)

【発行・編集】

JA兵庫六甲三田営農総合センター
お問い合わせ先;079-563-4192

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

7月13日に、生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

<生育調査結果と直近の管理>

コシカリの生育は、平年と大きくは変わらず推移しております。すでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、間断灌水で管理を行ってください。

山田錦の生育についても、草丈・茎数ともに、平年より短く少ないです。中干しの時期が近づいており、茎数が16～17本/株確保できていれば、天候を見て中干しを開始します。

品種	令和5年		令和4年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシ	79.8	28.0	78.5	23.7
どんと	79.3	23.4	74.0	27.2
山田	61.1	21.0	69.9	24.2

(各地区1圃場調査・10株調査1ほ場あたり)

<病害虫発生状況>

病害: いもち病の発生を確認しております。ここ数日の低日照と降雨により本病の発生が助長され、さらに天候不良が続くと見込まれますので今後注意しましょう。その他目立った病害は見つかりませんでした。

害虫: 夏ウンカ類等の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程ではありませんでしたが、イネカメムシの発生が見られました。出穂時に被害を受けると不稔となりますので、注意が必要です。

<今後の主な病害虫防除について>

【いもち病】

いもち病は日照不足や多雨により感染しやすくなります。本年は7月に入り不順な天候が続いており、葉いもち発病ほ場では穂いもちへ拡大する心配もあります。発病ほ場では基幹防除に加えて、下記の臨機防除も検討して下さい。



↑葉いもち病斑写真

薬剤名	適用病害虫	10aあたり使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
コラトップジャンボP	いもち病	小包装(パック)10～13個(500～650g)	葉いもちに対しては初発20日前～初発時 穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回
コラトップトレボン粒剤		3～4kg	出穂5日前まで	散布(たん水3～5cm程度の水深で散布)	

※詳しい登録内容についてはラベルをご確認ください。

【カメムシ類】

出穂の2週間前までには畦畔などの草刈を終えるようにしてください。併せて水田内のヒエ・ホタルイの除草も行ってください。イネカメムシについては、下記薬剤での出穂前後の散布が有効です。ただし、斑点米カメムシ対策として、出穂5～10日後にスタークル粒剤やスタークル豆つぶ等をもう一度散布する必要があります。

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり使用液量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スタークル顆粒水溶剤	カメムシ類	2000倍	60～150L	収穫7日前まで	散布	3回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍				
スタークルメイト液剤10	ウンカ類 カメムシ類	1000倍	60～150L	収穫7日前まで	散布	3回以内
		300倍	25L			
		8倍	0.8L			

※詳しい登録内容についてはラベルをご確認ください。

<今後の管理について>

【出穂前後の水管理】

出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは稲が特に水を必要とする期間飽水管理(表面に水がたまらない程度)により、根の活力を維持しましょう。

令和5年 7月6日発信	三田稲作情報		左記のQRコードを読み込んで いただくとHPでもご覧頂けます。 (スマートフォンのみ)
【発行・編集】 JA兵庫六甲三田営農総合センター お問合わせ先:079-563-4192			

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

6月29日に、水稲病害虫発生予察調査を実施しました。

1 生育状況と病害虫発生状況について

- ① 生育状況:今年は生育初期での寒暖差・低温による遅れが目立ち、加えて、ガスの発生により、全体を通して生育の遅れが見られました。
- ② 病害発生状況:特に目立った病害の発生は確認されませんでした。但し、6月30日～7月1日にかけていもち病に感染しやすい気象条件が続きましたので注意が必要です(県 BLASTAM 情報より)。
- ③ 害虫発生状況:市内山間地の圃場でイネドロオイムシの食害がみられました。兵庫県の要防除水準では、食害が20%以上で防除が必要です。食害が目立つ場合は、防除をしましょう。

令和5年生育調査データ(調査日:6月29日)

品種	草丈(cm)	茎数(本)	地区名	はたきおとし調査 ウカ(ヒメビウカ)	見とり調査(カッコ内は調査地) イネドロオイムシ・イネミスゾウムシ
コシヒカリ	49.8	19.4	三田・三輪	-	微(貴志)
どんとこい	47.5	18.9	藍・本庄	-	微(上相野)
山田錦	30.1	13.8	広野	-	-
			高平	-	-

(各地区1ほ場調査・10株調査/1ほ場)

2 害虫対策について

イネドロオイムシについては加害最盛期被害葉率20%以上で防除が必要となります。
今後は幼虫の発生に注意し、幼虫の発生が著しい圃場は防除を行ってください。

薬剤名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
なげこみ トレボン	イネミスゾウムシ	水溶性容器 4～6 個 (200～300mL)/10a	5 葉期以降 (但し、収穫 21 日前 まで)	3 回以内	水田に水 溶性容器 のまま投げ 入れる
	イネドロオイムシ				
	ウカ類	水溶性容器 10 個 (500mL)/10a			
	ツマグロヨコバイ				
	イナゴ類 イネクオラムシ				

3 雑草対策について

広葉・イネ科雑草がたくさん発生しているほ場は下記防除が必要です。

薬剤名	10a 当たり使用量	散布時期	使用方法	総使用回数
クリンチャー バス ME 液剤 (移植水稻)	薬:1,000ml 水:70L～100L	田植え後 15 日～ノビエ5葉 期(但し収穫 50 日前まで)	落水散布又はごく浅く湛 水して散布	2 回以内

- ・田植え後 35 日～40 日頃を目途に、生育の平均的な株の茎数が 16～17 本確保できれば中干しを行ってください。中干しにより無効分げつを抑制しましょう。
- ・カラムシ類対策として7月上旬までに1回目の畔周りの草刈りを行ってください。また2回目の草刈りを出穂2週間までに行いましょう。

※農薬散布前にはラベルに記載されている内容を確認し、適切に使用してください。